

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ポーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家(くつろぎ1階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かなところに施設があり、外に出るだけでも気分転換をすることができる。また花や野菜を育てて収穫を行ったりと自然を活かした過ごし方が行える。行事としては、お花見や夏祭り、紅葉狩り、もちつきなどを行い、おこしもの作りやおはぎ作りなど季節の行事を行っており、29年度からは竹を使った本格的な流しそうめんなどを行っています。夏祭り、もちつき、流しそうめんなどは近隣の方や子供たち、利用者様のご家族様が多数参加して頂け、交流の機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GHひだまりの家は、池のほとりの小高い丘の上、緑豊かな場所に居を構える単独型2ユニットのホームである。「我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する」の理念の下、生活環境を整え個々の居場所の確保に配慮し、回想法を活用して思いを引き出す取り組みを実践している。ユニット名に理念を盛り込み、1階を「くつろ樹」2階を「やすら樹」としている。入居者のこれまでの暮らし方を大切に、野菜の栽培や散歩等の屋外活動を日課にしている方もいる。また、食を楽しむ支援に力を入れ、食欲不振の原因調査や嗜好に対応し、定期的にパンランチや手作りおやつ、外食・喫茶レクを実施している。看護職員、喀痰吸引・経管栄養研修受講職員の配置やAED設置、また協力医療機関による24時間の対応が可能であることから本人、家族の安心感となっている。餅つき、流しそうめん、夏祭り等のホーム行事に地域住民を積極的に招待し、近隣の児童や保護者等の参加を得て地域交流を広げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我が家のように、くつろげるやすらぎのある生活を支援するという理念のもと、職員が利用者とともにゆったりとした雰囲気の中で生活を共にしているという意識の中で職務に取り組んでいます。	決まった時間に食事は提供されるが、その日の気分によって入居者の食べたい時間に合わせる等、入居者のこれまでの暮らし方や生活歴を大切にしている。社内研修の中で、理念について取り上げ、職員間で共有する他、玄関や重要事項説明書に理念を掲げ、来訪者、家族にホームの方針の周知を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の野外清掃や運動会などに参加したり、地域の方を招き夏祭りやもちつき、流しそうめんなどを行う事で地域との交流を持つように努力をしています。	町内会に入会しており、回覧板や町内会長より情報を得て、夏祭り、年4回の町内清掃への参加をし、地域との繋がりを大切にしている。また、ホームで開催される夏祭りや餅つき、流しそうめんの時には100件程チラシをポスティングし、地域住民の来訪が恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々へ向けての活動ではないが、地域の介護福祉士養成校や看護学校からの実習生の受け入れや、中学生の職場体験などで認知症への理解にむけての活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地元の市議員の方や市役所職員、利用者のご家族様に参加して頂き、ホームの運営などの助言をいただいたり、地域参加の情報などの共有に取り組んでいます。	家族、市議会議員、長寿課職員、近隣住民をメンバーとし、3か月に1回開催している。参加メンバーよりイベントへの参加提案や介護についての勉強会の開催の提案を受けて、認知症ケアの勉強会の開催を企画中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の窓口や電話でのやり取りで担当者との連絡を取り協力関係を築きながら取り組んでいます。	長寿課の担当者とは運営推進会議の他、手続きや相談等で電話だけでなく直接出向く事もあり、顔馴染みになっている。また、社会福祉協議会の定例会に管理者が出席している他、職員が実践者研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯に防犯上玄関を施錠していますが、日中は開放しており、身体拘束や虐待についての勉強会を随時開いて職員が理解を深め、検討できるように取り組んでいます。	年間研修計画の中に身体拘束をテーマに取り入れて研修を開催している他、職員会議の際にも事例検討を行っている。会議に参加できなかった職員は研修報告書を提出することで周知徹底を図っている。また、玄関を開放し、家族との話し合いの上、外出自由な入居者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い、虐待防止に関するマニュアルの作成、認知症についての基本理解を深められるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を活用されているご利用者様はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、あらかじめ契約書や同意書類に目を通して頂いてから説明をして納得をして頂いています。また、疑問があればいつでも質問を受け付けさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご家族様からの要望を伺ったり計画作成時にアンケートで要望を伺う、その他施設に來られた時、電話時などで要望を聞き出せるような方法を取っています。	面会時に意見要望を聞いている。面会になかなか來られない方には電話や手紙で対応している。毎月のおたよりの他、ホームの行事開催の案内は往復はがきで送付し、家族が気軽に欠返を返信できるよう工夫している。食事の際のテーブルが小さいのではと意見提案を取り入れ、テーブルを増やし環境整備を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の朝礼の中で職員から意見を聞いている。また3カ月に一度の法令遵守会議で管理者が集まり、施設の問題点や職員の意見を反映させる機会がある。	職員は朝礼時の他、フロア毎の会議、全体会議それぞれ3カ月に1回開催時に日常の気付きや意見提案を言い表す機会がある。管理者は年4回の法人会議でその旨を報告し運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者へはいつでも相談が行える体制となっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でも年度の研修計画を作成し、研修の機会を作っており積極的に外部の研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の出席や施設部会への参加などで、地域の同業者間の連携を行い、意見などを取り入れる取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から直接要望を聞くことは困難な場合も多いですが、ご家族からご本人のこれまでの生活をお聞きすることでこちらからニーズを見つけられるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る前の見学の際からご本人の状況をお聞きし不安を取り除けるような支援を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や担当のケアマネさんとの情報のやり取りを行い、その方にあつた支援を提供できるよう初期対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を尊重して、日常の家事や買い物などを一緒に生活をしているという実感が持てる様心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の際などに、気軽に相談し頂けるような雰囲気を作り、気持ちに寄り添った言葉かけを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人からの電話を取り次いだりと関係が続けられるように心がけています。	入居の際のアセスメントで馴染みの人や場所の聞き取りを行い把握するようにしている。昔美容師だった方のお弟子さんが髪を切りに来てくれる等、関係が途切れない様支援を行っている。また、手紙や年賀状の送付や電話の取次ぎの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配置などに気を配り、利用者同士のコミュニケーションがとりやすいように工夫したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族にも、暑中見舞いや年賀状を送ったり、イベントなどへの招待など関係を維持できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望が言える方は、できる限り実現できるよう努め、言えない方はご家族からその方の生活歴などを聞き取り、要望を把握するように努めています。	日常の関わりの中で本人の思いに気があった場合には、経過記録に記入し職員間で共有している。思いの表出が難しい方がいつもと違う様子であれば、職員は関わりを蜜に取り原因を探るようにしている。家族と本人の意向が違えば代弁をし家族の理解を得られるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族様から任意で生活歴アンケートを記入頂き、これまでの暮らしを把握するとともに、過ごしていく中での会話からその方の望む生活スタイルを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や、有する能力の把握を毎日の申し送りやスタッフノートなどで職員が共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・変更の前にはご家族様にお話しや、アンケートを送付し、ご家族の意見を聞けるようにしています。	半年に1回計画の見直しを基本とし、入居者の目標期間によって見直し時期を変更している。計画の見直しの際には、家族アンケートの他、本人のニーズの聞き取り、聞き取りが難しい場合には本人本位となっているかを検討し、立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表を利用して、日々の心身の状態を職員が把握し、統一したケアができる様な介護計画を作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物の付き添い、散歩などの外出支援を行い、個々のニーズにできる限り対応できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2カ月に一回、隣市にある美容室のスタッフに来ていただき、出張理美容を行っていただいています。地域のボランティアさんに声をかけ、楽しみのある生活を支援できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携しているかかりつけ医以外にも、利用者がほかの医院を希望された場合には、受診に付き添ったりと、適切な医療が受けられるように支援しています。	個々の従来かかりつけ医が協力医として月1～2回訪問診療を実施している。現在3つの医療機関と提携しており、どの協力医とも24時間対応可能。また年に1度健康診断を実施している。他科の受診は家族が対応しており、困難な場合は職員が付き添っている。薬の管理、協力医との連携、日常的な健康管理は3人の非常勤看護職員が行っており、必要時には医療相談や指示が得られる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から看護師への報告だけでなく、それぞれの立場で医療や他職種への連携が図れるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、必ず職員が付き添い、病院看護師との連携を取っています。また、提携医にも適時報告をし、退院後の連携がスムーズに行われるような支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	転倒骨折などで、要介護度が上がってしまったりご利用者様には、ご家族とも話し合いの機会を多くとり、かかりつけ医とも連携を取りながら支援を行っています。	重度化し医療の介入が必要となった場合でも可能な範囲で対応できることを説明し、また看取りも行うことを入居時に説明している。状態の変化の都度随時に、職員または医師、看護師から説明を行い意思の確認をし希望に添って応じている。家族が入居者と共に過ごせるよう宿泊可能で、その際は家族用ベッドを用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練や、事故発生時の対応についてのマニュアルの誠意日を行い、対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は今後の課題でもありませんが、災害時の水と食料の備蓄は行っており、消防訓練や救命訓練を行っています。	年2回、昼夜を想定した地震及び火災避難訓練を実施している。1階の入居者は玄関先まで、2階の入居者は避難経路である階段前まで実際に訓練をしている。備蓄は3日分の入居者と職員数分の水とおかゆを備えている。耐震対策に、各居室のテレビに転倒防止マットを敷いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけるような言葉かけは行わないように気をつけています。異性職員に対して拒否のあるご利用者の対応には同性の職員で対応するなど、個別の対応に留意しています。	接遇、プライバシーについて年間研修計画に組み入れて研修を開催している。職員同士の会話や入居者への声かけが不適切な際には管理者がその都度注意している。入居者の呼び名は基本名字に「さん」付けであり、フロアで開催する会議時には、プライバシーに配慮し、個人名を特定しないよう部屋番号を使用している。居室へは許可を得たりノックをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ色々な場面で選択して頂くよう心がけており、おやつなどでも自己にて選べる日をつくりご利用者に洗濯できる機会をもつて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合に合わせたケアにならないよう、ご利用者の希望を引き出せるような会話を心がけて、気持ちに沿った日常を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣服を選べるご利用者には自己にて選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いて食事ができるように音楽を流したり、ご利用者にあった食事形態を工夫しています。また、メニューの説明を行い食事を楽しみにして頂けるようにしています。	おおまかな食事提供時間はあるものの、個々の入居者の希望を尊重。献立と食材調達は主に外注であるが、苦手なものは別の食材で代用したり、その方の残存機能に応じた食事形態で提供している。また、嚥下体操を食前と体操時に実施し口腔機能の維持に努めている。摂食状況が思わしくない時には原因を探り改善に向けて取り組んでいる。毎月パンランチを実施し2ヶ月に一度はおはぎ作り等手作り食を共に楽しんでいる。時には外食ランチや喫茶で軽食をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し、摂取量が心配されるご利用者には声かけを行ったり食欲が出るように支援を行い、医師とも連携が図れるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者にあった口腔ケアの方法を歯科医、職員間で話し合い、ご自身でできない方には職員が支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為に、排泄のパターンを職員間で共有し、声かけを行ったり、必要時にはおむつやパッドを使用して利用者様にあった排泄方法を検討し、支援しています。	チェックリストを用いて個別の排泄状況を把握し支援に活用している。便秘対策には看護職員と連携したり、おやつ時間を午前と午後に分けて水分補給を図っている。声かけや排泄の確認は羞恥心に配慮して対応している。長期間入院から戻られた方へも自立に向けて段階を追い支援している。夜間は個々の状態に合わせた間隔や方法をとっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、緩下剤の処方では調整したり、排便チェック表にて規則正しい排便ができるように心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間は基本決まっていますが、体調の状態や体を汚してしまった場合など個別で別の時間や他の日などを随時支援をしています。	入浴は曜日と時間は決まっており、基本午後1回に週に2回は入れるよう支援している。毎日入らない方や拒む方も居りその日その日で入浴順を決めている。その方の好みの湯温を把握しており、調整している。浸かる時間も極力希望に添っている。歌と一緒に歌ったり会話をしたり、入浴が楽しめるよう工夫している。季節湯も実施している。希望者には常備している100%のジュースを入浴後に提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間に起きられない方は時間をずらしたり入床の時間も個々の生活に合わせてできるだけご利用者の意向に添うように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する目的を職員間で共有し、ご利用者さまの状態に合わせ医師や看護師と連携を図り服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が使うおしぼりを作ったり、洗濯物を一緒に干してたたむ等役割として行って頂き、気分転換に散歩や買い物、喫茶店などへ行って支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必ず希望に沿う事は困難ですが、できる限りご利用者の希望に沿って散歩や買い物などへ出かけています。坂道が多く近くに店がない為、車等で支援しています。	日常的に外出は自由に出ることができる。車椅子の方は職員の支援により定期的に近くの公園等へ出かけている。外出の動機づけに始めた写真撮影の取り組みが好評で、入居者の中には撮影を楽しみに出かけている方もいる。ウッドデッキのテラスやホーム横の畑でも活動できる環境が整備されている。2~3か月に一度は喫茶店や大型スーパーマーケットへ外食やショッピングに出かけたり、季節ごとに初詣や花見へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には自己管理をして頂き、必要なものがあれば一緒に買い物へ行きます。また、金銭管理ができない方にもご家族と相談して買い物等を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者から希望があれば電話して頂いたり、手紙を書いて頂いています。また、希望が無くても行事として手紙を書く機会を作り支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はできるだけ清潔を心がけ、季節の風や光を取り込み快適に過ごせるよう配慮しています。季節ごとに職員と共に作成した作品を展示したり写真などを飾って楽しみのある生活を工夫して行っています。	「今日は何の日?」の貼り紙や回想のヒントになる書籍等が置かれ会話のきっかけや生活歴、意向の把握に活用している。温度湿度計、加湿器を設置して室内環境を管理している。掃除も行き届き、清潔感がある。玄関は手摺りの位置に工夫が見られ、職員の顔写真と共に入居者写真が飾られ来訪者を出迎えている。玄関の軒先やウッドデッキテラスには椅子が配置され、日常的に出入りする入居者方の利用されている様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の希望によってソファで過ごされる方自身の席で過ごされる方居室で過ごす方とそれぞれの過ごし方で生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持ってこられた馴染みの品なども飾り、特に制限は設けずに模様替えなどして頂いています。また、職員からも作成したものを飾って頂いています。	ダンス、ベッド、エアコンを備え付けている。テレビ等を持ち込みされており、希望すれば冷蔵庫設置も可能である。照明には引き紐がついており、自由に点灯消灯ができる。部屋の中が見えないよう暖簾を掛けている方も居られた。内鍵をかうことが可能で、自身でプライバシーを守ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように施設にあるものがご利用者の抑制にならないよう気を付けて、安全に過ごして頂けるよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家(やすらぎ2階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた静かなところに施設があり、外に出るだけでも気分転換をすることができる。また花や野菜を育てて収穫を行ったりと自然を活かした過ごし方が行える。行事としては、お花見や夏祭り、紅葉狩り、もちつきなどを行い、おこしの作りやおはぎ作りなど季節の行事を行っており、29年度からは竹を使った本格的な流しそめんなどを行っています。夏祭り、もちつき、流しそめんなどは近隣の方や子供たち、利用者様のご家族様が多数参加して頂け、交流の機会となっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我が家のように、くつろげるやすらぎのある生活を支援するという理念のもと、職員が利用者とともにゆったりとした雰囲気の中で生活を共にしているという意識の中で職務に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の野外清掃や運動会などに参加したり、地域の方を招き夏祭りやもちつき、流しそうめんなどを行う事で地域との交流を持てるように努力をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々へ向けての活動ではないが、地域の介護福祉士養成校や看護学校からの実習生の受け入れや、中学生の職場体験などで認知症への理解にむけての活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地元の市議員の方や市役所職員、利用者のご家族様に参加して頂き、ホームの運営などの助言をいただいたり、地域参加の情報などの共有に取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の窓口や電話でのやり取りで担当者との連絡を取り協力関係を築きながら取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯に防犯上玄関を施錠していますが、日中は開放しており、身体拘束や虐待についての勉強会を随時開いて職員が理解を深め、検討できるように取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い、虐待防止に関するマニュアルの作成、認知症についての基本理解を深められるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を活用されているご利用者様はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、あらかじめ契約書や同意書類に目を通して頂いてから説明をして納得をいただいています。また、疑問があればいつでも質問を受け付けさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご家族様からの要望を伺ったり計画作成時にアンケートで要望を伺う、その他施設に来られた時、電話時などで要望を聞き出せるような方法を取っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の朝礼の中で職員から意見を聞いている。また3カ月に一度の法令遵守会議で管理者が集まり、施設の問題点や職員の意見を反映させる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者へはいつでも相談が行える体制となっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でも年度の研修計画を作成し、研修の機会を作っており積極的に外部の研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の出席や施設部会への参加などで、地域の同業者間の連携を行い、意見などを取り入れる取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から直接要望を聞くことは困難な場合も多いですが、ご家族からご本人のこれまでの生活をお聞きすることでこちらからニーズを見つけられるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る前の見学の際からご本人の状況をお聞きし不安を取り除けるような支援を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や担当のケアマネさんとの情報のやり取りを行い、その方にあった支援を提供できるよう初期対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を尊重して、日常の家事や買い物などを一緒に生活をしているという実感が持てる様心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の際などに、気軽に相談して頂けるような雰囲気を作り、気持ちに寄り添った言葉かけを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人からの電話を取り次いだりと関係が続けられるように心がけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配置などに気を配り、利用者同士のコミュニケーションがとりやすいように工夫したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族にも、暑中見舞いや年賀状を送ったり、イベントなどへの招待など関係を維持できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望が言える方は、できる限り実現できるよう努め、言えない方はご家族からその方の生活歴などを聞き取り、要望を把握するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族様から任意で生活歴アンケートを記入頂き、これまでの暮らしを把握するとともに、過ごしていく中での会話からその方の望む生活スタイルを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や、有する能力の把握を毎日の申し送りやスタッフノートなどで職員が共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・変更の前にはご家族様にお話しや、アンケートを送付し、ご家族の意見を聞けるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表を利用して、日々の心身の状態を職員が把握し、統一したケアができる様な介護計画を作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物の付き添い、散歩などの外出支援を行い、個々のニーズにできる限り対応できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に一回、隣市にある美容室のスタッフに来ていただき、出張理美容を行っていただいています。地域のボランティアさんに声をかけ、楽しみのある生活を支援できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携しているかかりつけ医以外にも、利用者がほかの医院を希望された場合には、受診に付き添ったりと、適切な医療が受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から看護師への報告だけでなく、それぞれの立場で医療や他職種への連携が図れるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、必ず職員が付き添い、病院看護師との連携を取っています。また、提携医にも適時報告をし、退院後の連携がスムーズに行われるような支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	転倒骨折などで、要介護度が上がってしまったご利用者様には、ご家族とも話し合いの機会を多くとり、かかりつけ医とも連携を取りながら支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練や、事故発生時の対応についてのマニュアルの誠意日を行い、対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は今後の課題でもありますが、災害時の水と食料の備蓄は行っており、消防訓練や救命訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけるような言葉かけは行わないように気をつけています。異性職員に対して拒否のあるご利用者の対応には同性の職員で対応するなど、個別の対応に留意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ色々な場面で選択して頂くよう心がけており、おやつなどでも自己にて選べる日をつくりご利用者に洗濯できる機会をもって頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合に合わせたケアにならないよう、ご利用者の希望を引き出せるような会話を心がけて、気持ちに沿った日常を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣服を選べるご利用者には自己にて選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いて食事ができるように音楽を流したり、ご利用者にあつた食事形態を工夫しています。また、メニューの説明を行い食事を楽しみにして頂けるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し、摂取量が心配されるご利用者には声かけを行ったり食欲が出るように支援を行い、医師とも連携が図れるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者にあつた口腔ケアの方法を歯科医、職員間で話し合い、ご自身でできない方には職員が支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為に、排泄のパターンを職員間で共有し、声かけを行ったり、必要時にはおむつやパッドを使用して利用者様にあった排泄方法を検討し、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、緩下剤の処方調整したり、排便チェック表にて規則正しい排便ができるように心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は基本決まっていますが、体調の状態や体を汚してしまった場合など個別で別の時間や他の日などを随時支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間に起きられない方は時間をずらしたり入床の時間も個々の生活に合わせてできるだけご利用者の意向に添うように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する目的を職員間で共有し、ご利用者さまの状態に合わせ医師や看護師と連携を図り服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が使うおしぼりを作って頂いたり、洗濯物を一緒に干してたたむ等役割として行って頂き、気分転換に散歩や買い物、喫茶店などへ行って支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必ず希望に沿う事は困難ですが、できる限りご利用者の希望に沿って散歩や買い物などへ出かけています。坂道が多く近くに店がない為、車等で支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には自己管理をして頂き、必要なものがあれば一緒に買い物へ行きます。また、金銭管理ができない方にもご家族と相談して買い物等を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者から希望があれば電話して頂いたり、手紙を書いて頂いています。また、希望が無くても行事として手紙を書く機会を作り支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はできるだけ清潔を心がけ、季節の風や光を取り込み快適に過ごせるよう配慮しています。季節ごとに職員と共に作成した作品を展示したり写真などを飾って楽しみのある生活を工夫して行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の希望によってソファで過ごされる方自身の席で過ごされる方居室で過ごす方とそれぞれの過ごし方で生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持ってこられた馴染みの品なども飾り、特に制限は設けずに模様替えなどもして頂いています。また、職員からも作成したものを飾って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように施設にあるものがご利用者の抑制にならないよう気を付けて、安全に過ごして頂けるよう工夫しています。		